

一 左京四条一坊六町、四条条間小路

(1)
「鰯等魚借

(82)×15×2.5 051



ほぼ完形の物品付札。「借」については他にもう一点「鰯借」の出土例がある(左京第二六七次、『木簡研究』一四)。肉月を人偏に作る異体字の例もあるので、「借」は「腊」の意味であろうか。

(一 松崎俊郎、二 國下多美樹、积文 清水みき)

京都・長岡京跡 (2)

- | | | |
|---|-------|---------------------|
| 1 | 所在地 | 京都市伏見区淀樋爪町 |
| 2 | 調査期間 | 一九九三年(平5)四月～一九九四年三月 |
| 3 | 発掘機関 | 財京都市埋蔵文化財研究所 |
| 4 | 調査担当者 | 吉崎 伸・上村和直・木下保明・長宗繁一 |
| 5 | 遺跡の種類 | 都城跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 長岡京期(七八四～七九四年) |

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

当調査は、一九九〇年より継続している水垂地区の発掘調査で、既に報告したように左京七条三坊一・二町で四点の木簡が出土している(『木簡研究』一三一)。今回報告するのは左京六条三坊二町(新左京六条三坊四町)の調査で(左京第一八八次調査)、井戸底部に据えられた曲物に墨書を確認した。

調査地は同町の南西隅三戸主分にあたり、他に建物一六棟、井戸四基などを検出

している。

井戸 SE 一〇四は、一边約 1m の方形横桟一段縦板組で、深さは 1・1m を測る。この底に直径 40cm、高さ三四cm の曲物を据える。

井戸は、南から三戸主目の宅地に伴うものとみられ、宅地の南東端に位置している。井戸内からの出土遺物は、長岡京期の土師器杯 B の完形品が曲物底部に伏せられるように見つかり、埋土からは斎串が一点出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1)

「角萬福」

径 400 × 高 340 061

墨書は、曲物外面に書かれていたため残存状態が良く明瞭に読み取れ、一字約 7cm 角と大きく書かれている。位置は接合部分にあたり、接合部と墨書との関係から、曲物にする前の板状に加工された段階で既に書かれていた可能性がある。曲物は、墨書面がおおよそ西を向くように据えられていた。今回のような曲物墨書の類例はこれまで長岡京の調査にはなく、今後は井戸曲物自体の観察に注意を払う必要がある。井戸 자체の祭祀とともに、宅地への招福を願つての墨書と考えられるが、今後の資料増加をまって検討する必要がある。

(長宗繁一)



